

医療コラム2回目のテーマは「虚血性心疾患」

です。なお今回はお伝えする内容が多くなるため、前編と後編に分けてお届けします。

◇ 2

虚血性心疾患 上



胸の痛み続けば要注意

虚血性心疾患といわれるとなじみはなくても、狭心症や心筋梗塞であれば聞いたことがある、と多い人ではないでしょうか。

虚血性心疾患とは狭心症と心筋梗塞をまとめた総称ですが、この病気を

動脈硬化とは年を取る

虚血性心疾患とは、心臓を栄養する血管(冠動脈)が動脈硬化で中が狭

るはずの痛みが、左肩の痛みや歯が浮いたような感覚、背中の痛みなど、さまざまな方向に広がって出てくることもありま

す。胸痛が10分程度で治まる場合は狭心症、20分以上や我慢できない痛みの場合には心筋梗塞を疑いますが、いずれにせよ一定時間続く胸の痛みがあれば、すぐに病院で診てもらった方が良いでしょう。

また糖尿病の方や高齢者に、痛みが鈍くなる傾向があるため、知らない間に虚血性心疾患が進行している場合があります。わずかな体調の変化を見逃さないよう注意しておくことも大切です。

を指します(図上)。

詰まっていけないのに対して、心筋梗塞では動脈硬化の塊が破れることで血管の老化現象であり、年

取ると必ず進行していきますが、各種のリスク因子を持つている方(脂

質異常症・高血圧・糖尿病・喫煙など)は、動脈硬化が促進すると考えら

れています。

西部支社(伊達)

TEL 0142-23-2103

FAX 0142-23-5848

seibu@muromin.co.jp

中部支社(登別)

TEL 0143-85-4530

FAX 0143-85-4773

chubu@muromin.co.jp

白老・苫小牧支社

TEL 0144-82-2484

FAX 0144-85-2300

札幌支社

TEL 011-241-2753

FAX 011-241-2637

ニュース、生活情報、購読、
広告は上記の各支社へ
お知らせください。

おがさわら・たいすけ 1974年生まれ 医学博士。神戸大学医学部医学科卒。2002年2月より伊達赤十字病院循環器科第2循環器科部長として着任。狭心症や心筋梗塞といった循環器救急疾患をはじめ、足梗塞といった病気に代表される下肢の血管病に対して専門的に取り組む。

負荷がかかった際に、みぞおち付近の締め付けられるような痛みや、ギューッと押されるような重い感じが出現することが一般的ですが、冷や汗や吐き気、あるいは放散痛といつて本来心臓で起こるはずの痛みが、左肩の痛みや歯が浮いたような感覚、背中の痛みなど、さまざまな方向に広がって出てくることもありま

す(図下)。

胸痛が10分程度で治まる場合は狭心症、20

分以上や我慢できない痛み

の場合には心筋梗塞を疑

いますが、いずれにせよ

一定時間続く胸の痛みが

あれば、すぐに病院で診

てもらった方が良いでしょう。

また糖尿病の方や高齢

者に、痛みが鈍くなる傾

向があるため、知らない

間に虚血性心疾患が進行

している場合があります。

わずかな体調の変化を見逃

さないよう注意しておく

ことも大切です。

後編では虚血性心疾患

の検査や治療法について

解説しますので、今回の

前編と併せてお読みくだ

さい。

運動などで心臓に

さい。